

金山の兄弟諸君!!

會社の苦しみよぎれの祝言に迷ふ

金山の労働者の作業者より不安を除き生活を改善向上するため今回のストライキが起つて以来、就尾尾労働課長はありゆる術策を弄して吾々の組合を一撃に潰さんと計畫し、因たの兄弟も眼もいたまじいほどの猛毒を試みたが組合は微動たりせなかつた。みなならず日に兄弟諸君の理解と同情を得て、罷業は大きく強くなる。行くばかりであつた。

此形勢に敢あつた就尾尾は天人共に許さざる公傷患者の治療打切と云ふ慘虐なる暴挙をなして、潰して七才余名と云ふ小手数を押さつた。吾々の結果を先し組合を潰さんとしたのである。然るに誰かか、吾々の苦難を許さう。公傷患者の治療打切の問題に關しては、直ちに大夜飯山監督局の活動となり、監督局が出席し、詳細に委員博を調査して、適法の処置を講ずることとなり、裁前問題に對しては罷業委員をして團結を固く、此も覺悟して抗弁する決意を生ぜしめ、兄弟諸君の同情も期せずして、裁首者と集まりために罷業團の結束は倍加す。此形勢に敢あつた就尾尾は更に今度は又、供ダマシの嘘八百の流言を放つて結束を紊さうとわかつた。即ち一二の例を示せば

- 一、組合に借金か貸しなり米も没収減つて来て今に困る云々
- 二、應援者はアキレテ歸つた云々
- 三、鐵道省に對して、運賃金を買つて消防夫にでも雇はれるやうにしたと云々
- 四、入城者は半宿甲と愛りなりある従つて、金も石も普通に出知し、ある云々

とあること、何れもツキマゼてあつた。この等流言を放たしめて居る。けれども兄弟諸君、考つて見給へ、なるほど吾々の金が無く、充分な生計が出来ないからこそ、金を出したのだ、初めから余で任友と對抗するつもりは、露ほども無い。が、今や吾々の正義の叫びは全國の労働者諸君の理解と同情とを得て、吾々をして戦ふに差支ない丈りの偉大な資金は、續々と寄附されつゝある。日本労働総同盟は余力を投入して吾々を應援する決意をもつて居る。此真に於て吾々は、大船に乗るに心持多で、戦ふことか出来るのだ。又應援團の諸君は自分の業を捨てて、自分等同様、金持ちのために苦しめられる労働者のために戦ふ勇気な

階級的戰士で遠である。何れに苦しんで歸へる必要かありう。次に何人の理由もないに、裁首をして、吾々を救ふか、今更消防夫云々とは何人の世迷ひ言葉かありう。要するに彼かか、流言を放つて諸君を迷はさんとするのには、それだけ會社が苦しめられ

の世迷ひごとであり、苦しめた証據だ。

金山の兄弟諸君

仲間の信義の爲に吾等に同情を興へられよ

一九二六年一月三日

別子鑛山 爭議團

日本鉱友組合 別子鑛山支部

會社の取極め苦しめマキレの流言に迷ふことなく、吾々の結果に同情を興へられよ。諸君、頭上には労働者勝利の榮光が輝くであらう。